

教育プログラムの名称 : 文化創生学

授与する学位の名称 : 学士(学術)

【教育目標】

山形大学及び地域教育文化学部の教育目標を踏まえ、文化創生コース(学術)では、地域における教育と文化創生に関わる幅広い知識・技能を分野横断的に教授して、「安全かつ安心な生活」及び「文化的に豊かな人生」を支え、地域の人々とともに、多様な地域課題の解決に取り組む実践的な人材の育成を目的としています。

【卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)】

山形大学及び地域教育文化学部の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)のもと、文化創生コースの各プログラムでは基盤共通教育及び学部の専門教育を通じて、以下のような知識・態度・能力を獲得した学生に「学士(学術)」の学位を授与します。

1. 豊かな人間性と社会性

- (1) 心身の健康及び芸術・スポーツ文化に関する問題意識を持ち、積極的に学び続けることができる。
- (2) 良識ある市民として地域の伝統文化を尊重しつつ、心身の健康増進及び芸術・スポーツ文化の創造、発展に資する責任ある行動をとることができる。
- (3) 多様な意見を引き出しながら目的の共有を図り、取りまとめるファシリテーターとして地域社会の心身の健康及び芸術・スポーツ文化に関する課題解決に取り組むことができる。

2. 幅広い教養と汎用的技能

- (1) 地域社会における心身の健康及び芸術・スポーツ文化に関する諸課題についての基本的知識がある。
- (2) 学際的な学びを基盤とした心身の健康及び芸術・スポーツ文化に関する地域課題解決の実践力を身に付けている。
- (3) 地域社会の心身の健康及び芸術・スポーツ文化に関する課題を、世界の多様な社会や文化との関わりの中で捉えることができる国際感覚を身に付けている。
- (4) 心身の健康及び芸術・スポーツ文化に関わる地域の諸課題に柔軟に対応し、他者と協働しながら課題解決に取り組むことができるコミュニケーション能力がある。

3. 専門分野の知識と技能

- (1) 地域文化創生のために必要な心身の健康及び芸術・スポーツ文化に関する専門的知識や技能を身に付けている。
- (2) 地域文化創生に必要な専門的知識を基盤とし、さらに、他分野の知識や技能も活用しながら心身の健康及び芸術・スポーツ文化に関わる地域の諸課題の解決に取り組むことができる。

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

山形大学及び地域教育文化学部教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に沿って、文化創生コースでは、学生が体系的かつ主体的に学修できるように教育課程を編成し、これに従って教育を行います。

1. 教育課程の編成・実施等

- (1) 基盤共通教育においては、1年次を中心に、「導入科目」、「基幹科目」、「教養科目」、「共通科目」をバランスよく履修し、広い視野・教養を得る。また、「共通科目」では、3年一貫教育としてコミュニケーション・スキル1（英語）を履修し、英語活用能力の向上を促す。
- (2) 学部専門教育においては、専門教育科目を、「中心科目」、「基礎科目」、「専門科目」、「発展科目」の4つのカテゴリーに分類し、体系的・段階的に学ぶことができるように配置する。
- (3) 「中心科目」は、学部共通科目として位置づけ、地域貢献・地域創生を実践するための基本となる科目群と、専門教育で学んでいる知識・技能を地域課題の解決を目指して総合的に活用し企画・運営・実行していく実践演習群の「フィールドプロジェクト」とで編成する。
- (4) 基盤共通科目・専門教育科目の一部を「自由選択科目」として配置する。
- (5) 「文化創生コース」に3つのプログラムを配置する。

○心身健康支援プログラム：地域の健康文化を支援する人材育成。認定心理士、中・高一種免許状（保健体育）取得可。

○芸術文化創生プログラム：地域の芸術文化を支援する人材育成。中・高一種免許状（音楽、美術）取得可。

○チャレンジプログラム：大学院（地域教育文化研究科文化創造専攻）進学を前提にした6年一貫教育。中・高一種免許状（音楽、美術、保健体育）取得可。

2. 教育方法

- (1) 基礎的かつ包括的な知識を習得する科目群と実践的かつ基礎技術を習得する科目群とを相互補完的に履修させ、知の実践力の育成を促す。
- (2) 主体的な課題発見・解決能力を培うために、PBL型授業を学年進行に伴って拡充する。
- (3) 人間性及び社会性の涵養を促進するために、協働による参加型・対話型授業を初年次から展開する。

3. 教育評価

- (1) 学生自身による到達度の検証と自主的・自律的改善を可能にするような具体的な評価基準を策定し、学習成果を評価する。
- (2) 地域貢献・地域創生のために実践力を総合的に活用し、企画・運営・実行する主体性・自律性を評価する。

【入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）】

地域教育文化学部は、地域における教育及び健康文化・芸術文化を構成する諸科学の教育・研究を通じて幅広い視野と探究心，豊かな人間性に基づいた責任感と倫理観を持ち，独創性と柔軟性をもって地域課題に取り組み，地域社会の自律的な発展に寄与する実践的な人材の養成を目的とします。

地域教育文化学部の求める学生像及び入学者選抜の基本方針は以下のとおりです。

1. 求める学生像（3つのC）

Challenge : 広い視野に立って，新しいことに挑戦しようとする意欲のある人

Cooperation : 課題に積極的に取り組む行動力，他者を受け入れる包容力，社会性とコミュニケーション能力を備えている人

Contribution : 今日的な社会課題とその課題解決に強い関心があり，地域文化の活性化に貢献できる職業に就きたい意欲・情熱を持っている人

2. 入学者選抜の基本方針

地域教育文化学部は、地域における教育及び健康文化・芸術文化を構成する諸科学について学び，広い視野と探究心，豊かな人間性に基づいた責任感と倫理観をもって地域の課題に取り組み，地域社会の自律的な発展に寄与する意欲をもった学生を受け入れます。

以上のような観点から，地域教育文化学科の文化創生コースでは，具体的に次のような入学者選抜を実施します。

地域教育文化学科

<文化創生コース>

本コースは，地域社会の持続可能な発展を「こころ」と「からだ」の両面から支援し，市民の主体的な地域文化創生を支援する意欲をもった学生を受け入れます。そのために，高等学校までの基礎的な学力や，得意分野に関するすぐれた理解・技能を有して，地域文化のコーディネーター・ファシリテーターを目指す意欲をもった学生を受け入れます。

地域教育文化学科・文化創生コースの求める学生像及び入学者選抜方法は以下のとおりです。

◆求める学生像

- ・地域における健康支援や文化的活動に興味や関心のある人
- ・心理学，栄養学，食品学，スポーツ科学など心身の健康に貢献する学門分野に興味や関心のある人
- ・音楽，美術，デザインなど芸術文化に関する分野に興味や関心のある人
- ・保健体育科，音楽科，美術科の中学校・高等学校教員を目指す人

◆入学者選抜方法

（1）一般入試（前期日程）

大学入試センター試験では，「文科系あるいは理科系で5教科6科目又は5教科7科目」，

「実技系（美術）で4教科4科目又は4教科5科目」，「実技系（音楽）で3教科3科目又は3教科4科目」，「実技系（スポーツ）で5教科5科目又は5教科6科目」の試験を課し，高校時代の基礎的な学力を総合的に評価します。個別学力検査としては，「文科系あるいは理科系」で英語，化学，生物のいずれか1つの試験を課し，考察力・論理的思考力・記述力を総合的に評価します。「実技系」で美術・音楽・スポーツのいずれか1つの実技検査を行い，コースに関わる基礎的な実技の能力を評価します。

※「実技系」とは，美術，音楽，スポーツをいいます。「文科系あるいは理科系」とは，実技系（美術，音楽，スポーツ）以外をいいます。

（2）一般入試（後期日程）

大学入試センター試験では，5教科6科目又は5教科7科目の試験を課し，高校時代の基礎的な学力を総合的に評価します。

個別学力検査としては，面接（口頭試問を含みます。）により，地域貢献に対する姿勢や，新たな課題に挑戦しようとする意欲，関心，積極性，コミュニケーション能力とともに，コースに関わる適性等を評価します。

（3）推薦入試Ⅰ

大学入試センター試験を課さず，推薦書，調査書，志望理由書の書類の他，「文科系あるいは理科系」では，面接（口頭試問を含みます。）によって，地域貢献に対する姿勢や新たな課題に挑戦しようとする意欲，関心，積極性，コミュニケーション能力とともに，コースに関わる適性等を評価します。「実技系」では，面接（口頭試問を含みます。）と実技検査（美術，音楽，スポーツから1つを選択します。）によって，コースに関わる適性等を評価します。

（4）AO入試Ⅰ

実技系（美術・音楽・スポーツ）志願者を対象とします。大学入試センター試験を課さず，第1次選抜では，書類選抜により，高校時代の学業や課外活動の記録について評価し，これらを総合して可否を判定します。

第2次選抜では，面接（口頭試問を含みます。）と実技検査（美術・音楽・スポーツから1つを選択します。）により，課題に挑戦する積極的な姿勢や基礎的な実技の能力について，大学のAO入試担当者が訪問して総合的に評価し，可否を判定します。

（5）社会人入試

実技系のうち美術と音楽について実施します。大学入試センター試験を課さず，実技検査及び面接（口頭試問を含みます。）により，地域貢献に対する姿勢や，新たな課題に挑戦しようとする意欲，関心，積極性，コミュニケーション能力とともにコースに関わる適性や，コースに関わる基礎的な実技の能力等について評価し，可否を判定します。